

募集要項

募集対象

認知症の人がいきいきと暮らせるための活動を行っている団体やグループなどの取り組みを募集します。自治体や法人の活動から、友人・知人で作るグループの活動まで、規模や活動のカタチは問いません。

選考基準

- ① 共生社会に向けた先駆性、オリジナリティーがあるか
- ② 認知症当事者が望む活動を、本人も一緒に進めているか
- ③ 多様な人々と共に活動し、地域に広がっているか
- ④ 他の地域に応用できる可能性があるか

応募方法

以下の内容を記載して、お送りください。書式は問いません。ホームページからも応募できます。

【応募者について】

- ①お名前 ②所属 ③住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス

【取り組みについて】

- ①団体(または活動)名称 ②代表者名 ③所在地 ④連絡先 ⑤ホームページURL ⑥活動を始めた年 ⑦主な活動地域 ⑧活動PR ⑨認知症の当事者の声をもとに当事者と一緒にどのように活動しているか(活動を通じて当事者にどのような変化があったか、当事者の生の声も教えてください) ⑩活動の広がり(当事者の参画の広がり、地域や他分野とのつながりの広がりなどを具体的に)

【賞罰】

賞罰歴の有無 ※今回応募の活動に対する受賞がある場合、受賞した年度、賞名、賞の主催者をお書きください。

※その他、活動の内容が分かる資料(リーフレットや写真、動画等)があれば添付してください。

※応募内容について、より詳しく伺うため、お電話などで確認を取らせていただくことがあります。

※結果は「応募者」に通知いたします。

【送り先】

〒150-0041
東京都渋谷区神南 1-4-1
NHK厚生文化事業団「ともに生きるまち大賞」係

NHK厚生文化事業団ホームページ

<https://www.npwo.or.jp>

(応募用紙サンプルをダウンロードすることができます)



結果発表

結果は10月下旬ごろ、応募いただいたみなさまに通知いたします。

表彰式

12月～1月に東京で行う予定です。

お問い合わせ

NHK厚生文化事業団 TEL | 03-3476-5955 (平日10:00～18:00)

選考委員

永田 久美子 (認知症介護研究・研修東京センター副センター長兼研究部長)

丹野 智文 (おれんじドア代表)

鎌田 松代 (認知症の人と家族の会 代表理事)

町永 俊雄 (福祉ジャーナリスト)

ほか

第8回



認知症とともに 生きるまち大賞



認知症のある人が、どうすれば住み慣れたまちで、
自分らしく暮らし続けられるか——。
当事者とともに考え、
実践している活動を募集します!

受賞団体の
いくつかの活動は、
NHKの番組で紹介する
予定です。

募集期間

2024年4月1日～8月31日(必着)

主催 | NHK NHK厚生文化事業団

後援 | 認知症の人と家族の会 日本認知症本人ワーキンググループ ほか

2023年度の受賞団体

昨年度、受賞した5団体の活動を紹介します。



うごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会からうごおたすけ隊へ つながる羽後町

秋田・羽後町

学校、郵便局、タクシーなどさまざまな業種でキャラバン・メイトが誕生したことで、活動の輪が広がっている。自動車教習所でのハッピー運転教室&Dカフェ（認知症カフェ）も行い、そこで自ら免許返納を決意した方のために、自宅からの送迎と買い物支援を500円で請け負う「うごおたすけ隊」の活動も始まった。



キャラバンのメイトが最初から「まちづくり」の実践に組み込まれているのが特色。ハッピー運転教室は、認知症当事者の運転への不安から生まれた活動で、行政等からの「返納促進」ではない。さらに、「うごおたすけ隊」が新たに発足するなど、本人主体の取り組みへと成長・変化していることが優れている。



練り歩き隊が八王子に行く！認知症の人が仲間と一しょにまちを変える、明日を創る

東京・八王子市

認知症の人たちが地域の図書館と大型スーパー内を練り歩き、自らの視点で読みたい本を探したり、買い物をしたりする。その中で、案内板やトイレの表示など分かりづらいところはないか意見を出す。その意見に耳を傾け、可能な限り修正を行うことで、誰もが使いやすい図書館やスーパーになり、それが誰もが暮らしやすいまちづくりへの一歩となる。



認知症の人を中心に置いて、成果が誰にも見える形のユニークなまちづくりとなっているところが優れている。また、受け入れる企業・公共施設側にも「ともに生きる」という思いが生まれていることが大きなポイント。今後も様々な場所を練り歩いてもらい、認知症バリアフリー社会への変化が地域社会全体で共有されることを期待したい。



発案から発信まで本人が中心に わすれな草の会

神奈川・大和市

2組の若年性認知症当事者とその家族の「悩みや思いを共有する場が欲しい」という願いからスタートした活動。市や社協なども事務局としてサポートする。当事者が発案し、バス旅行や陶芸体験といったイベントを実施したり、FMラジオや講演会で自身の地域での暮らしぶりや希望を発信したりする活動を行っている。



認知症当事者がやりたいことをもとにしながら、活動を地域の中で広げていて、その活動は多岐にわたっている。また、行政との関係性も理想的。行政はサポートをするが、活動内容は押し付けではなく、あくまで本人の決めたことを後押しするという立場。この関係性は他地域でも大いに参考になる。



当事者を中心に地域での社会参加の場を提供 チームFCいわくら

京都市

認知症当事者の鈴木貴美江さんを中心に、農園・カフェ・作業工房・キッチンなど地域での社会参加の場を提供する取り組み。週1度の農園の活動には障害のある人や大学生なども参加。農園で採れた野菜を使って地域の子どもたちと一緒に食事をする収穫祭を、年4回ほど開催している。



この取り組みは、「認知症の人のため」を超えて、チームとしての交流が自然に認知症への正しい理解と知識を学ぶことにつながっている。今では認知症の人も、そうでない人もそれぞれが役割を持ち活動する場となっている点が優れている。一人の認知症を生きる人の声に耳を傾けることが、思いを受け止め、地域の様々な活動につながり、地域が活性化している。



「本人の自立と尊厳」を大切に広がる活動 一般社団法人はるそら

岡山市

本人や家族の相談先や居場所が必要と考え、2019年に設立。代表自らの介護体験から、認知症の診断から関係機関につながるまでの「空白の期間」が短くなるように努めている。「本人の自立と尊厳」を大切にしながら「はるそら広場」「はるそらしゃべり場」「はるそらゼミナール」などを定期的に開催するほか、県内の学生との交流を行うなど活動が広がっている。



広範な活動の核には、「本人の自立と尊厳」が活動指針として据えられている。さらに「家族の視点」と「若い世代との交流」の二つの特色がある。「はるそらしゃべり場」は、家族のピアサポート機能を持たせるなど包括的な取り組みとなっている。そして、地元の大学生たちとの交流は、双方にとってかけがえのない未来形成につながるだろう。

ホームページでは
これまでの受賞団体を
まとめて紹介しています



<https://www.npwo.or.jp/tomonikirumachi/>

「認知症 × 地域づくり」の
先輩たちとつながれます！

認知症とともに
生きるまち大賞

これまでの受賞団体ご紹介
「認知症×地域づくり」の先輩たちとつながります！

地域から見つける

テーマから見つける

カフェ	交流	働く
暮らし	外出	通学
2023年受賞	2022年受賞	2021年受賞
2020年受賞	2019年受賞	2018年受賞
2017年受賞		

2023年受賞